

地域資源利用学特論 I (2単位)

担当者氏名 中村好男 三原真智人

◆学習・教育目標

河川流域内での水循環に基づいた水資源の有効利用ならびに生物資源を活用した環境付加価値型農業の構築と農村振興のあり方を考究する。あわせて、農業生産や環境保全およびエネルギー開発における資源利用の過程で必要とされる利害調整手法について検討し、流域保全に果たす資源管理のあり方を考究する。なお、この科目は必要に応じてバイリンガル（日本語と英語）で実施する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

流域水循環	水資源利用	資源利用調整	水環境
農村生態系	地域的水管理	環境財	流域保全

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	水資源の形成・循環と利用および水環境（第1～4週）	世界と日本の水資源特性、水循環と水利用システム、農業用水と地域用水ならびに環境用水の水利構造を検討する。	・農村・農地・水資源と地域環境に関する現代的テーマを学習する。
2	水利資産の農村環境保全機能評価（第5～8週）	農業水利システムが形成した農村生態系と農村環境との関係を考察し、環境付加価値型農業の構築について検討する。	
3	農業用水の経済財・環境財としての評価及び地域的管理（第9～12週）	農業用水の農業及びエネルギー利用における経済財および環境財としての特性ならびに 地域コミュニティ を加えた資源管理と農村振興のあり方を検討する。	・地域を支える農業水利資産の特性を明らかにし、農村振興に果たす役割について理解を深める。
4	地域における資源利用調整工学の役割（第13～15週）	水や土地・生物資源の利用と保全における利害の発生要因を属人および属地的視点から検討し、地域における資源利用調整工学のあり方と役割を考究する。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

授業初めに担当教員から指示がある。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

授業初めに担当教員から指示がある。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業中に課すレポートの内容（70点）とディスカッションによる理解度（30点）をもとに評価する。

◆その他受講上の注意事項

・メールによる質問や問い合わせについては次の通りとする。

中村好男 (nyoshi@nodai.ac.jp), 三原真智人 (m-mihara@nodai.ac.jp),